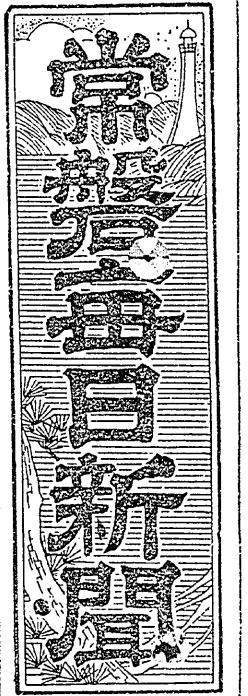


刊夕日二十月二十



定価 一月五元 三月十五元 半年三十元 一年六十元
 廣告刊五號 十二字第一行五元 五拾行
 日曜 休 二日 休 日 休 日 休
 發行所 東京市本町三丁目 常警新聞社
 印刷所 東京市本町三丁目 印刷株式會社

郵便年金の

寫眞と標語

平郵便局長

去る十月一日の簡易保険記念日を利用して小學兒童の感想文と清書の募集を爲し多大の効果を収めた仙遊保険課及簡易保険局では今回郵便年金の周知用として左の要領で寫眞と標語の懸賞募集をすることとなつたが中にも寫眞の募集は頗る時好に適した新しい試みであらう

- 一、寫眞
 - イ、課題 郵便年金周知用ポスターとして使用するに適當なもの
 - ロ、條件 A 懸賞は印書に依ることとしカビネ版以上にして菊金紙ポスター大に引伸に適當なる未發表のものたること。
 - B 懸賞品は採否共に返戻をなさざること
 - 〇 入選作は原板を提出のこととし其の版權は簡易保険局に屬せしむること。
- ハ、締切 昭和十一年一月十日
- ニ、宛先 簡易保険局監督課宛とし封皮に「懸賞寫眞」と朱書のこと

- ホ、賞金 入選
 - 一席 一人 五十圓
 - 佳作 五人 各十圓
- 二、標語
 - イ、課題 郵便年金の必要・効果、特長等を力強く簡明に表現せるもの。
 - ロ、締切 昭和十一年十二月三十一日
 - ハ、用紙 官製はがき、但し一枚に一標語のことに
 - ニ、宛先 簡易保険局監督課
 - ホ、賞金 入選
 - 一席 一人 二十圓
 - 二席 一人 十圓
 - 佳作 十人 各五圓

- 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
- 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
- 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
- 【朝】半べの白味噌汁
- 【書】魚鹽 やき
- 【晚】蛤なべ

尙標語懸賞者の参考までに郵便年金制度の趣旨を左に記載する、凡そ人類の有する慾望の中最も熾烈なるものは「生きたい」として「生かされる」ものである、生として生けるものは皆今日一日を良く生き明日を楽しく過し更に一生を幸福に暮らすことを願ふと同時に一日でも長生したいと願はないものはないであらう。然し乍ら人間には免れ得ざる老衰と云ふものがあ

る、此の老衰期に於て活動せんとするも活動すること能はず、之を扶養すべき者のない場合悲惨なるものはないと思ふ。

近時産業組織の變遷にもなひ老年者の離職一層増加し又教育の發達と就職難の結果自分の將來を子女に托することは漸次困難に陥りつつあるが、養老問題は獨り現代社會の問題なるのみならず遠く往昔よりの問題であるが、今まで全く表面化しては居らないけれども、實は社會の奥底に深く秘む根強い問題であり、社會の痛とも云ふべき問題である。

文藝募集

のである。之が救済策としては活動力の旺盛にして所得の確保せらるる時代に於いて秩序節制ある生活を營み、餘資を蓄積して將來老後の準備貯蓄として置くことを要するが、之が手段としては貯金養老保険信託等種々の方法もあるが、最も安全にして確實なるものは郵便年金制度の利用である郵便年金制度は時代の要求に應じ相互扶助の精神の下に保險組織により國民の老後の生活安定を圖る目的を以て施設された我國唯一の防貧的養老制度である。

一冊の代金で 御希望通りな 五册の雑誌が 自由に讀める 川崎文庫 電話六三〇番

千ヤナギ 賣り始めました いか切込 鯉節 鯉鹽辛

平土橋 丸仙鮮魚店 電話六六二番

福祿ストロップ福引

景品付大賣出し

景品總額五萬圓 期間昭和十一年九月廿五日ヨリ十二月十二日マデ 賣出規定 ストロープ御買上ノ方ニ左ノ割合リテ 准呈致シマス。

- 福引券 一號 大衆(中型)寶(大小)各一本ニ付一枚
- 二號 大衆(大型) 各一本ニ付二枚
- 三號 各一本ニ付三枚
- 四號 各一本ニ付四枚

- 景品引換 昭和十一年二月十五日ヨリ四月十五日迄
- 景品 福引券一千枚ヲ以テ一組トシ當選ノ方ハ左ノ景品ヲ差上グ
- 一等 百圓
- 二等 參拾圓
- 三等 拾圓
- 四等 五圓
- 景品 福引券ニ最寄ノ代理店ニテ景品ト引換致シマス
- 福祿ストロップ販賣代理店 空籤ナシ

平町五丁目 釜屋商店 阿部石炭商店

吸入用酸素純度99%

度量器 体温計 暖計

關内藥局 電話四〇番

特約販賣店募集

助川町 中村町 植田町 原ノ町 其他各地 一町一店(絕對遵守) 右開店御希望の方へ道具付にて 最も有利に御相談いたします。

滿洲パン 白土左行 滿洲羊かん始めました。

第四校敷地買収

年内全部完了か

町営グラウンドをも含む

承諾地主の豫約金協議

平町第四小学校並町営運動場の建設敷地買収交渉は過般來交渉委員が總坪數一萬八千坪の所有地主山崎與三郎氏外廿二名に對して交渉中であつたが大体交渉が成立してをり目下交渉中の地主は四名を残すのみとなり之も難なく纏る模様で年内には全部調印を見る豫定の爲め本十二日午後一時より會議室に買収委員會を開會敷地買収承諾地主に對して反當り百圓の豫約金交付を協議した

度豫算に計上、之が實現を期すことになつた

永戸村道改修補助陳情

永戸組合村大字合戸より上小川に通ずる村道は既に林道工事で全道路の前後改修工事を完了してゐるが中間約千米は工事施行なきため不便を極めてゐるので急々改修工事を爲すことになり町村補助工事としてこれが補助を申請することになり萩野村長外數名は折柄出福中の郡選出縣議と協力陳情の爲本十二日出縣した

大量製産を期し

搾油工場擴張

來年の買上げ五千俵

躍進の四倉菜種工場

局半塚、相澤兩技手である

四國九州廻り

団体募集

平町申込開始

四倉菜種搾油工場は本年の郡産菜種の殆んど全數である四千六百餘俵を買入れ事業を行つて居るが明年も收穫豫想高五千俵を全部買入れ事業の擴張を計畫し既記の如く明春早々搾油機一臺の増設を行ふ外従業員も増員して二部制とし晝夜兼行で事業發展に大馬力をかける事になつた

ラヂオ

技術講習會

平町マルトモに縣電氣協會主催ラヂオ技術講習會は本十二日より三日平町マルトモホールで開催中であるが講師は仙臺放送

教へられて第一回の訓練を無事に済した、何れ來春は正式の結團式を擧げる筈

町長の忘年会

平町長は十五日夜谷口樓に在平日刊記者團を招待忘年の宴を張ることになつた

結局村議改選?

注目される村長の態度

昨報一小川村の助役決定村會の紛糾は、決戦投票に破れた佐藤重男外四村議の辭表提出に端を發してゐるが同村は上小川、下小川の兩大部落に分れて組合村となつてゐる關係上所謂兩部落の對立抗争に原因するものゝ如く今回助役に選出された柴崎佐之吉氏は上小川村の政友派の重鎮として知られ亦紛糾の原因となつた五名の村議は何れも下小川選出の政友系村議であり結局部落派の抗争と見られるが曩に草野正次村議員の病氣辭職あり六名の缺員を見ることになりが町制に依れば全議員の六分の一缺員あつた場合補欠選挙を開かれることになつて居り今后を注目されてゐる

小川村會紛糾後報

宮崎神宮 青島 鶴戸神宮 別府 錦帯橋 嚴島 尾道 多度津 琴平金比羅宮 高松 尾島 栗林

公園 京都 桃山御陵 奈良 伊勢神宮 二見浦 熱温泉

箕輪組合村 平職業紹介所報告 人を求める方

△女中 廿才迄 年給四十圓
△女中 卅才迄 給料面談
△農夫 廿五才迄 月給六圓
△出前持 廿才迄 月給五圓
△職を求めの方

貧血馬豫防検査日割は十四日より廿八日まで左記村で行はれる
上遠野村 入遠野村 澤渡組合村 永戸組合村

十七日一夜限り

廣澤 虎造 雲井 雷太郎 木村 重友 東家 小樂 友春 會場 聚樂館 主催 いはらき新聞社

食事場

を兼ねた

の冬サロンの

暖房設備が出来ました

御家庭の延長として是非御利用下さいませ

温かい ミルク(牛乳) 十錢
御飯物 リプトン紅茶 十錢
お菓子 十五錢

平町電三五二 男給の店 イッキサロン

●年商戦迫る! 店頭宣傳と 販賣促進に 敷島の切ハタ

青沼總理が

よいお爺さん振り

昨日の入團式

既報少年團は昨日午後一時半から第一校講堂に入團式を擧行した、流石選抜健兒達の集りだけに時間は勵行、定刻から指名の点呼があり青沼町長がニコやかなよいお爺さん振りを發揮して總理としての優しい挨拶

技術講習會

平町マルトモに縣電氣協會主催ラヂオ技術講習會は本十二日より三日平町マルトモホールで開催中であるが講師は仙臺放送

熱田神宮出發 名古屋 天の橋立 城崎温泉 出雲大社 宮崎宮 博多 大宰府 二日市 長崎 雲仙温泉 島原 三角 阿蘇登山 熊本 水前寺公園 鹿兒島 南那神社

局務繁忙

東北一を目指す 平の保険加入状態

市外通話料も激増

景氣好轉の朗かな話題

平郵便局で最近調査した同局現在の保険加入成績を仙臺通信局管内東北地方一二等二十局と比較すると成人保額金は三萬七千四百二十八圓四十錢で青森、土崎、石巻局に次ぐ第四位の好成绩にありまた小児保険は三百二圓で青森、若松に次ぐ第三位でいづれも好成绩を見せて居るが同局では東北一を目指して更に年末期を迎へ飛躍せんと新しい募集計劃を立てゝゐる。

尚同局の去月中の切手額は總額二萬六千七百七十二圓二十七錢で昨年同月に比し三千七百九圓十三錢を増加したが反對に印紙額は一萬四千二百二十五圓六十九錢で昨年より千八百六十五圓二十二錢を減じて居るまた通話料三千二百八十八圓五錢は經濟取引の活況を物語つて二百八十九圓二十四錢、電報料の七百六十三圓三十一錢も昨年よりは六十四圓七十一錢といづれも激増し局員は整理に大奮闘である。

愈々冬は本格 氣温は下る一方

早い初雪の訪れて
名物木枯も吹始る

例年より十八日早く十日初雪を見た平地方の氣温は十一日朝に至つてグッと低下し最低氣温水點下三度五分を示し本冬季に入り一番の寒さで水桶、水溜りには相當厚い氷が張り空地や原つばは霜で真っ白となつたといふ本格的な冬の襲來である小名濱測候所では語る

カムチャツカ方面に七百二十ミリの低氣壓があり支那地方に七百八ミリのと云ふ發達した高氣壓がある關係から寒い北西の風が吹いて來て氣温がメッキリ低下した譯ですが平年に比較して見ると大差なくいままでが平年より温かかつたので特に寒

豫審終結

昭和八年十一月十八日國家改造の非常手段として齊藤内閣打倒を企てその資金獲得の爲め平町八幡神社に忍入り寶物を窃取せんとして失敗し更に赤井村水昌常福寺の金製佛像價格六萬圓を盗み出さんとして未遂に終つた統天塾一味の平町渡邊甚内外の豫審は東京地方裁判所豫審部係りで審理中であつたが此の程豫審終結して有罪と決定關係者はいづれも近く石坂裁判長係りで公判に附される

赤井藥師

復興助成建議
十日縣會に提出

名勝地古刹磐城赤井藥師堂復興助成並に同地參道改修及び四倉下小川間大野村駒込地内切下げ工事施行方針に關する建議案は縣議草野三郎氏から本縣會へ十日提案されたがりの助成理由は

明日の天気
今明も明日は北
西の風晴曇半す

今晚の部

- 後六、〇〇 子供の時間 名作物語「青い鳥」三 東京放送童話研究会
- 後六、二五 講演「鐵道荷物の常識」鐵道省運輸局 荷物課長片岡調郎
- 後七、三〇 講演 後八、〇〇 漫才「苦勞を忘れて朗かに」深田繁子 廣島洋々

明日の部

- 前七、〇一 現代語講座「十四」婦人の言葉と子供「言葉」保科孝一
- 前七、三〇 朝の修養「易」

酒井警女教諭

畫道精進の爲 辭職して東京へ

今十二日附正式發令に接した、同氏は同校在任は十一年三月の長きに亘り圖畫を擔任して同校の情操教育に盡すところ甚大で生徒から親しまれ今回の辭任を非常に惜まれてゐる、因に送別式はまだ未定であるが兩三日中舉行の豫定であると、尚今後は東京に居るを定め専ら畫道に精進する由

磐城郷友總會

福島 市警城郷友會は去る十日午後四時より市内中常に於て第五十五回總會を開催、縣會議員遠沼龍輔、山田六郎、小野晋平、小松章、草野三郎、氏等の來賓諸氏を始め會員三十有餘名出席、直に宴會に移り十二分の歡を盡して午後八時盛況裡に散會した

第二發電所を 平へ起工

工費七十萬圓
内郷村磐城炭礦では高坂坑の復活と綴堅坑の排水工事に備へる爲め平町の第一發電所の傍らに第二發電所を

賀狀に挿入して 明るく選挙を

縣で募集規定を發表

過般の縣議選に肅正選挙の實を擧げた縣當局では來春の總選挙を前に更に肅正趣旨徹底を圖るべく新春挨拶を機として官公吏は勿論一般よりも左記規定により賀狀の文案構圖の懸賞募集を行ふ事となつたが本郡よりも多數應募する様町當局で希望してゐる

△内容 一年賀挨拶の外選舉肅正の趣旨徹底に最も効果ある短文、標語圖案を適當に表示し印刷(活版石版)の類せるもの但し印刷の外に木印ゴム印等を併せ押印するも差支なし 2 單に應募を目

平町人事

- △十五丁目 高田隆一氏三男 眞治さん
- △田町五丁目 小松四郎氏二女 イク子さん



(著上映上)
(演時時)

悟道軒圓玉(作)
丸尾至陽(畫)

三、憤慨した織部正
米國公使代理ヒュースケンは公使館を建設する敷地の三ヶ所とも外國奉行の堀織部正に拒絶されて大いに怒り。

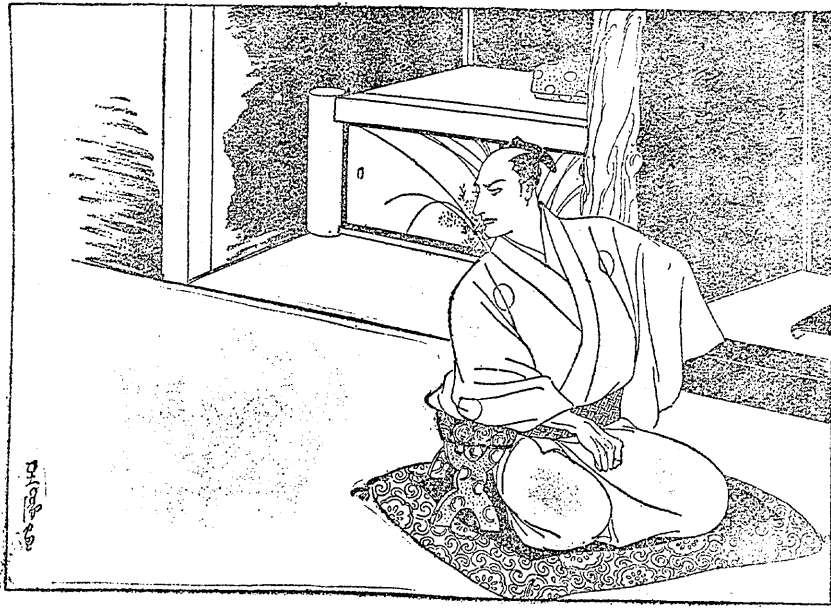
ヒュースケ「此らの事より我等其の感情を害しては日本のために不利益であらう、この上は老中に談判してその承諾を受けるであらう、この大馬鹿者」

といひまして、ヒュースケンはここを去り直に老中安藤對馬守侯の官邸に参つて堀織部正が公使館の敷地とする三ヶ所ともに貸與へることにならぬと申ししたが是非一ヶ所貸してもらひたいと談判した安藤侯これを聞いて

對「織部正はあなたの申し出に就いてきびしく拒絶したしたか」

ヒュースケ「左様、御殿山も貸すことはならぬ、その貸與への口實は彼の地からは將軍家の御座所が見えらるるの事、又お濱御殿は非常立退き場、越中島は練兵場のことなれば、これも貸與へることはならぬと申ししたが、堀の如き世界の大勢に通ぜぬ者を外國奉行に致し置く

と向來大事を惹き起すであらう、よくこの邊をお考へ下さい」
對「何れ沙汰を致す、今日



はお引取り下さい」
斯う申してヒュースケンを戻して、それより堀織部正を招き
對「今度公使館建設のことについて米國のヒュースケンより願ひ出たことをその許はみな拒絶したとのことであるが」

織「左様、高輪御殿山、越中島、それにお濱御殿等ももつとも必要な地でございます故ことはりました」
對「それはもつともに存するが御殿山は貸し與へてもよろしからう」
織「これは仰とも存じませぬ、御殿山よりは御城中が一日に見えますぞ」
對「そのやうなことはあるまい、如何なる精巧なる望遠鏡なればとて上様の御座所を見ることはなるまい、依つて貸與へたがよろしから

第一にその館をつくるこまが例になつて居る、今江戸に居る公使は築地に居る者もあり、或は増上寺麻布の善福寺などを公使館にして、何かにつけて不便のこと、それ故彼等は一定の場所公使館を建設したいと申し居るは尤もものことと思ふそれは一々拒絶したしては彼等の怒りを買ふて國交上に就て障りな來すこともさうか、それに高輪御殿山は當時住む者もないさすれば貸與へてよろしからう、其許の意見に依ると御殿山は高地であればそれより望遠鏡を以て御座内を見たらば要害も一日の下に判り、一朝事あつた時大いに不利益のことであるが、さういふ意見を抱き居る故談判についてもさばり來す打寛いで朋友と物を言ふごとく彼等を取扱ふならば將來のためにもよろしからうと思ふ。まづまづ彼等を敵として戦ひを開くことはあるまい」

織「これはまた異な仰せ、我國の恥辱とあらば戦ひもいたさねばなりません、戦争を致す意志を以て彼等に接しますれば我國の面目を惹き起すことはありますまい、兎角彼等を恐れ居ります故彼等は其の弱點につけ入り横暴を極めます」
對「その許は時勢を知らぬな、この對馬の意見としては御殿山は貸與へるも仔細あるまい」
織「さう思召した上は御勝手になさい、館者は今日只今外國奉行の職を辭します……」
對「それは其許の隨意にするがよい、イヤ愚な事だ」といつて笑ひました、織部正は憤然と席を蹴立て、去り、木挽町の屋敷に戻つて來たが、一室に入り誰にも會はぬ、奥方は心記して御不快ならば御醫師をお召し遊ばせと申したが、イヤ病氣ではないと言つて醫師を呼ばぬ、すると家來の三島三郎に吉野政助といふ者が織部正の居間の次に参つて

吉「申し上げます、お目通りの上申し上げたことがございませぬがゆるし下さいますか」
とかう聞いた。
織「これへ入れ」
吉「御免を蒙ります」
二人は襖を開いてそれへ入る。

喜多流謡曲と仕舞の

お稽古をお奨め致します

平町田町六九

喜多 謡曲 仕舞 白土會

電話一二七番

ほねざき

桑原柔道整骨院

平町園下電話六七四

貴方の御家庭に

お手不足は御座いませぬか

本會を御利用下さい

直に家政婦を派出します

親切 料金は極め低廉で
町寧 妊産婦の御家庭
御病人の付添 お留守居番
炊事や雑用 年寄やお子さんの付添

派出多忙に付會員至急募集

平町紺屋町二(電話二二三番)

上原家政婦會

會主 産婆 上原通子

歯科口腔外科

レントゲン科

院長 東京齒科 原 精一

原齒科醫院

平町土橋通り
電話三一三番